



新開地アートひろば

- 神戸アートビレッジセンター（KAVC）は、
2023年4月より「新開地アートひろば」としてリニューアルオープンいたしました

「育ち・ふれあうアートのまち」の新開地アートひろば

新開地アートひろばは、1996年4月に開館した、神戸アートビレッジセンター（KAVC）が前身となり、2023年4月にリニューアルオープンいたしました。「発表施設」「練習・制作施設」「無料開放スペース」の3つからなる文化施設で、子どもから大人まで、あらゆる世代が交流する、開かれた「ひろば」となり、地域の文化活動拠点になることを目指して運営しています。

リニューアルでは、特に子育て世代や若者をはじめ、多様な世代が日常的に利用できる新たな機能を新設しました。また、複合文化施設の特徴を活かし、様々な人々が共に文化芸術に親しみ、楽しめる場を創造します。多彩なアーティストやクリエイター、次代を担う若手芸術家との協働にご期待ください。

- 自主事業年間プログラム「ニューあそび場の創造」について

月替りで、アーティストがやってくる。多彩な『あそび場』で、一緒にあそぼ！

この度のリニューアルに伴い、自主事業の企画方針も一新いたしました。

新開地アートひろばでは、施設全体を『あそび場』として捉え、毎月多彩なジャンルのアーティストと協働して、「あそべる作品」や「あそべる空間」を創造するシリーズ企画「ニューあそび場の創造」を始動いたします。

新開地アートひろばの前身である、神戸アートビレッジセンター（KAVC）では、2018年より舞台芸術プログラムディレクターに演出家のウォーリー木下を迎え、館長の大谷燮と共に『創る劇場』をコンセプトに事業を展開・運営してきました。この度、新開地アートひろばとしてのリニューアルオープンを機に、ウォーリー木下が事業アドバイザーとして事業の展開・運営に携わり、新しく「ニューあそび場の創造」を自主事業として立ち上げます。

「ニューあそび場の創造」では、様々な形の「あそび」をアーティストと共に創造し、「あそび」を通じて文化芸術に触れることが出来る催しを展開。複合文化施設の特徴を活かし、1F 無料開放スペースのほか、ホールやギャラリー、スタジオ、リハーサル室など、館内の様々な場所を使って開催します。アーティストの個性を活かした、多彩な『あそび場』に、ぜひご注目ください！

今後のアーティストラインナップ（予定）：

田岡和也、オマルトヴェンザー、遠山敦、目黒大路、森本アリ、栗栖良依、StarMachineProject、安住の地ほか

お問い合わせ 新開地アートひろば [指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団]

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地 5-3-14

TEL：078-512-5500 FAX：078-512-5356 Mail：press@s-ah.jp（担当：野澤）